

リリースノート: Dominion® KX II ソフトウェア (バージョン 2.7)

バージョン: DKX II 2.7 リリースノート、修正版 1

日付: 2016 年 1 月 20 日

発効: リリース 2.7 ファームウェアがすぐに利用可能。

該当モデル:

Dominion KX II モデル:

DKX2-108、DKX2-116、DKX2-132、DKX2-216、DKX2-232、DKX2-416、DKX2-432、DKX2-464、DKX2-808、
DKX2-832、DKX-864

リリースステータス: 一般向け提供

Dominion KX II の概要:

Dominion KX II はラリタンの第 2 世代 Dominion KVM-over-IP スイッチで、デュアル電源とデュアルギガビット Ethernet ポートを搭載しています。KX II は、仮想メディア、ずれないマウス (absolute mouse synchronization) 機能、ブレードサーバー、スマートカード、音声、iPhone/iPad インターフェース、カスケード接続、1920x1080 リモート画面解像度などの先進機能に対応した、新しいユーザーインターフェースです。Dominion KX II では、シングル KVM-over-IP スイッチによってアナログとデジタル両方のビデオ (DVI、HDMI、DisplayPort) がサポートされています。アダプターは不要です。

リリース 2.7 の概要:

リリース 2.7 は、リリース 2.6 をベースとするファームウェアリリースで、各種の強化、改良、修正が行われています。

Dominion KX リリース 2.7 の強化点:

1. CommandCenter の管理下にある場合、[View Only Permission] (表示のみ許可) をサポートしています。
2. Windows 上で標準 KVM Client を AKC に変更。.NET ベースの KVM Client 対応の環境であれば、Microsoft Windows のプラットフォーム上で、Java 非依存の Active KVM Client (AKC) をデフォルトで起動できます。適切なプラグインを使用すれば、Microsoft Internet Explorer および Edge のブラウザ、そして Chrome で AKC を使用できるようになりました。Java ベースの VKC KVM クライアントが望ましい場合、Chrome または Edge ブラウザで <IP Address>/kvc または <IP Address>/vkcs を使用してください。
3. Microsoft Windows 10 および Edge ブラウザに対応。
4. Chrome ブラウザ (Java Webstart) に対応。Chrome ブラウザでは、ラリタンの Virtual KVM Client (VKC) のような Java アプレットを起動するためのプロトコルへのサポートが終了しました。今回のリリースでは、Java Webstart を使用して Chrome の最新リリース (45以降) を有効化し、VKC を起動できるようにしました (<IP Address>/vkcs の使用が必要)。
5. Chrome で AKC に対応。ラリタンの Active KVM Client (AKC) は Java を使用しないため、Windows プラットフォーム上で Chrome ブラウザから起動することができます。これには、Chrome ClickOnce プラグインが必要です。
6. セキュリティの強化。SHA-2 証明書対応、新しいラリタンのコード署名証明書、OpenSSL ライブラリのアップデート、証明書生成のキーサイズを 4096 ビットに拡大、お気に入りのアプレットはログイン後のみ利用可能、セキュアでない RC4 暗号へのサポート停止。
7. さまざまな修正、細かい部分の強化、ドキュメントのアップデート。
8. KX II ユーザーマニュアルおよびクライアントマニュアルのアップデート(英語版のみ)。リリース 2.7 バージョンのユーザーマニュアルは、KX II の Web ベースユーザーインターフェースの左パネルにある [Help] (ヘルプ) > [Online Help] (オンラインヘルプ) リンクまたはラリタン社の Web サイトから入手できます。

Dominion KX II ドキュメント:

Dominion KX II に関する次のユーザー向けドキュメントをご用意しております。

Dominion KX II ユーザーマニュアル – KX II のローカルおよびリモートブラウザベースのユーザーインターフェース、および一般的な使用に関するユーザーマニュアルです。

Dominion KX II クイック セットアップ ガイド – KX II の初期設定について説明します。

KVM and Serial Client Access Guide (KVM および Serial Client Access ガイド) – ラリタン製品のリモートクライアントに関する参照ドキュメント

Dominion KX II CIM Guide (Dominion KX II CIM ガイド) – Dominion KX コンピューターインターフェースモジュール (CIM) に関する参照ドキュメント (どの CIM を使用するべきか、など)

Dominion KX II Blade Configuration Guide (Dominion KX II ブレード設定ガイド) – Dell および IBM のブレードサーバー向けの詳細な指示事項とスクリーンショットが記載されています。

Dominion KX II ドキュメントは、KX II の web ベースのユーザーインターフェースまたはラリタンのウェブサイト (www.raritan.com/jp) から入手いただけます。[Support] (サポート) セクションにアクセスし、[Dominion KX II] を選択してください。ドキュメントはリリースごとに更新されていますので、該当するリリースをクリックしてください。

Dominion KX II オンラインヘルプ:

オンラインヘルプシステム をご利用いただけます。情報パネルの左にある [Help] (ヘルプ) > [Online Help] (オンラインヘルプ) をクリックすると、オンラインヘルプシステムが起動します。[Contents] (目次)、[Index] (索引)、[Search] (検索) の各タブから、適切なトピックを参照することができます。Dominion KX II ユーザーマニュアルは、テキストや画像を含む全体を参照いただけます。また、同マニュアルには多くのリンクも記載されています。

ラリタン製品のオンラインヘルプは、下記のラリタン Web サイトでご参照いただけるようになりました。

<http://www.raritan.com/jp/support/help/>

コンピューターインターフェースモジュール (CIM) の概要

Dominion KX II では、次の CIM をご利用いただけます。

D2CIM-DVUSB: デュアル USB、仮想メディアに必要な VGA ベースの仮想メディア CIM、ずれないマウス (absolute mouse synchronization) 機能、先進 KVM 機能。この CIM は、OS/BIOS レベルでの仮想メディアドライブ、ならびにスマートカードと音声機能へのアクセスに有用です。

D2CIM-DVUSB-DVI、D2CIM-DVUSB-HDMI、D2CIM-DVUSB-DP: D2CIM-DVUSB では、新しいバージョンの DVI、HDMI、DisplayPort が 2012 年 6 月に発売されます。

D2CIM-VUSB: シングル USB、仮想メディアに必要な仮想メディア CIM、ずれないマウス (absolute mouse synchronization) 機能。この CIM は、OS レベルのみで仮想メディアドライブにアクセスする際に有用です。

KX I DCIMs: DCIM-PS2、DCIM-USBG2、DCIM-SUN。DCIM-USB および DCIM-SUSB は販売終了となるため、DCIM-USBG2 をご使用ください。

DCIM-USBG2: DCIM-USBG2 は、KX II 用のベーシックな USB CIMです。DCIM-USBG2 には小さなスイッチがあり、SUN サーバーと USB ポートを使用するには、このスイッチを「S」位置に設定する必要があります。

D2CIM-PWR: リモートのケーブルタップを KX II に接続する必要があります。

一部の Paragon CIM: P2CIM-AUSB、P2CIM-PS2、P2CIM-USB、P2CIM-SUSB、P2CIM-SUN、UKVMPD、UUSBPD、UKVM、USKVMPD。

Paragon Dual CIM: リリース 2.3 時点でのサポート対象は、P2CIM-APS2DUAL および P2CIM-AUSB DUAL です。

P2CIM-SER: シリアル機器に接続できます。ファームウェア V2.63 以降と併せてロードされている場合、KX II スイッチとの連動使用がサポートされています。

互換性情報 (リリース 2.7):

1. 上記 Dominion KX II モデルおよびリリース 2.7 は、CommandCenter® Secure Gateway (CC-SG) リリース 6.0 および 6.1 との使用について、認証を受けています。最善の結果を得るために、CC-SG 6.0 以降にアップグレードすることを強くお勧めします。
2. KX III スイッチは、次の 3 つの KVM リモートクライアントによってリモートでアクセスすることができます。

リモートクライアント	説明
Virtual KVM Client (VKC)	Java ベースのクライアントで、Web ブラウザから実行します <IP Address>/vkc で強制的に起動可能 Chrome と Edge では、<IP Address>/vkcs を使用
Multi-Platform Client (MPC)	ラリタンのクラシックなユーザーインターフェースを搭載した Java ベースのクライアント。CC-SG リリース 6.0 以降で は、MPC はサポートされません。 KX I および KX II スイッチ。
Active KVM Client (AKC)	Microsoft .NET ベースの Windows クライアント Web ブラ ウザ: <IP Address>/akc で強制的に起動可能

3. SUN Java™ Runtime Environment (JRE) version 7 は 1.7.0_80 までサポートされています。
SUN Java™ Runtime Environment (JRE) version 8 は 1.8.0_66 までサポートされています。
これらは、リリース時点での現在の Java バージョンです。今後のバージョンの Java が正常に機能するには、行われる変更により互換性の問題が発生しないことが前提となります。何か問題がございましたらテクニカルサポートにお問い合わせください。対応策またはパッチリリース (利用可能な場合) をご提供します。
 - Java バージョン 6 は Dominion KX II ではサポートされていません
 - Java プラグインキャッシュを無効にすることをお勧めします。
 - セキュリティを最大限にし、Java およびブラウザの警告メッセージを最小限に抑えるために、各 KX II スイッチに SSL 証明書をアップロードすることをお勧めします。
 - ラリタンの Java アプレットをロードするには、すべてのセキュリティ警告に同意のクリックをする必要があります。
4. Internet Explorer バージョン 10 /11 および Edge ブラウザはサポートされます。Firefox バージョン 33、38、40、41。Chrome バージョン 40、44、45。Safari 7.0.5 および 8.0.7。
5. ネイティブな Windows クライアントである Active KVM Client (AKC) には、Internet Explorer 10 以降および Microsoft .NET Framework バージョン 4.0 または 4.5 が必要となります。
 - Windows Vista および Windows 7/8/10 デスクトップはサポートされます。
6. 上記 JRE バージョン情報は、Dominion KX II をスタンドアロンで使用する場合に適用されます。CC-SG と併せて使用する場合は、CC-SG のリリースノートおよび互換性マトリックス (Compatibility Matrix) を参照してください。

留意事項および重要な情報 (リリース 2.7):

1. **Java に関する推奨事項。**ラリタンでは、KX II の各スイッチに SSL 証明書をアップロードすることを推奨しています。これにより、特定の Java メッセージが排除されます。
2. Windows ユーザーは、Java を使用しない .NET ベースの Active KVM Client (AKC) を使用することができます。この場合は、下記 URL を使用します。
 - <KX II IP Address>/akc.

3. **Chrome での VKC ダイレクトポートアクセス。**このリリースの場合、VKC KVM Client でのダイレクトポートアクセスは Chrome では機能しません。Microsoft Windows プラットフォームをご使用の場合は、別のブラウザまたは AKC を使用してください。

留意事項および重要な情報 (リリース 2.6):

1. Java。近年の Java はセキュリティが向上し、セキュリティ警告が増加する結果となり、Java アプレットや特定のバージョンの有効期限をブロックするようになっています。リリース 2.6 は、Java 7 Update 51 まで、互換性があり、テストも行われています。
2. Java の警告を低減するために、KX II の各スイッチに SSL 証明書をアップロードすることをお勧めします。
3. Windows ユーザーは、Java を使用しない .NET ベースの Active KVM Client (AKC) を使用することができます。この場合は、下記 URL を使用します。
`https://<KX II IP Address or Hostname>/akc`

留意事項および重要な情報 (リリース 2.5):

1. **新しいデジタルビデオ CIM (DVI, HDMI, DisplayPort):**
 - a. デジタルビデオ CIM は E-EDID および DDC に対応し、[Preferred Timing Mode] (優先タイミングモード) (ユーザーの望む画面解像度)、ならびにサポートされているほかの画面解像度をターゲットサーバーに伝達します。この優先画像解像度は、KX II ユーザーインターフェースの [Port Configuration] (ポートの設定) ページの [Display Native Resolution] (本来の表示解像度) でもあり、デフォルトは 1280x1024@60hz です。この値は、ユーザーが後から変更できます。
 - b. 一部のサーバー、特に BIOS レベルでは、サーバーに CIM が提供した優先 (本来の) 解像度に自動的に変更されないことがあります。[Display Native Resolution] (本来の表示解像度) の手動での変更、解像度のサーバーでの手動での変更、サーバーのリポートも可能です。または、そのほかのアドバイスについては、サーバーや KX II 関連のドキュメントを参照してください。
 - c. 同じサーバー上でも、一部のビデオは、特定の優先画面解像度を表示しないことがあります。別の解像度を試すか、サーバーをリポートしてください。または、サーバーや KX II 関連のドキュメントを参照してください。
 - d. 仮想メディア転送中は、ポートの [Display Native Resolution] (本来の表示解像度) を変更しないでください。転送が中断される場合があります。
 - e. Linux では、[Display Native Resolution] (本来の表示解像度) を変更する際、X ウィンドウシステムの再起動やシステムのリポートが必要となる場合があります。
 - f. D2CIM-DVUSB-DVI では、DVI-D および DVI-I はサポートされますが、DVI-A (あまり一般的ではない) はサポートされません。
 - g. D2CIM-DVUSB-HDMI CIM は、HDCP や埋め込み音声をサポートしていません。一部のサーバーでは、DVI に互換性のある画像信号を送る [DVI Compatibility Mode] (DVI 互換モード) により、優れた画質が得られます。これは、[Port Configuration] (ポートの設定) から設定できます。
 - h. D2CIM-DVUSB-DP は、DPCP または埋め込み音声をサポートしていません。
2. **デュアルビデオサポート:**
 - a. プライマリポートとセカンダリポートは、両方とも、同じ画面解像度とポート許可を使用する必要があります。
 - b. クライアント、Dominion KX II、およびターゲットサーバーはすべて、同じプライマリ/セカンダリポートモニター方向で設定する必要があります。方向とは、プライマリ画面とセカンダリ画面の分割状態です。
 - c. プライマリポートは、(1) 1 番左の画面 (横方向) のポート、または (2) 最上部の画面 (縦方向) のポートにしてください。これにより、マウス設定、仮想メディア、スマートカード、デジタル音声は、プライマリポートから制御されます。
 - d. OS の推奨マウスモードについては、ドキュメントを参照してください。ビデオカードや OS がサポートしている拡張デスクトップの種類は、重要な考慮事項です。デュアルビデオに使用されるマウスモードは、1 つのビデオの使用とは異なる場合があります。
 - e. 1 つのクライアントモニターで全画面モードにする場合、シングルマウスモードの使用はお勧めしません。

- f. 2 つの KVM セッションを同時に起動すると、複数のリモートユーザーをサポートする KX II モデルが必要となります。デュアルビデオポートを搭載する複数のサーバーの場合、DKX2-808 または DKX2-832 の 8 ユーザースイッチを推奨します。

3. SNMPv3:

- a. ユーザーインターフェースの 2 つのページで有効化する必要があります。
- b. [Device Settings] (デバイス設定) > [Event Management - [Settings] (イベント管理 - 設定) > [SNMP Traps Configuration] (SNMP トラップの設定)
- c. [Device Settings] (デバイス設定) > [Device Services] (デバイスサービス) > [SNMP Agent Configuration] (SNMP エージェントの設定)

- 4. **SSL 証明書の脆弱性。**KX II で脆弱性スキャンを実行すると、工場出荷時にインストールされているデフォルトの SSL 証明書に関連する違反が表示されることがあります。これらの脆弱性を解決するには、ユーザーが自身で署名した証明機関から入手した、ユーザー各自の SSL 証明書をインストールする必要があります。

留意事項および重要な情報 (リリース 2.4):

1. Digital Audio over IP 機能:

- a. 音声機能には、D2CIM-DVUSB CIM が必要です。
- b. D2CIM-DVUSB には、リリース 2.4 CIM ファームウェアバージョン 3A88 または 5A88 (またはそれ以降) が必要です。リリース 2.4 ファームウェアをアップグレードすると、取り付けられているすべての CIM もアップグレードされます。取り付けられていない CIM については、[CIM Firmware Update] (CIM ファームウェアのアップデート) 機能を使用して、アップグレードすることができます。
- c. 音声パフォーマンスは使用可能なネットワーク帯域幅に依存します。CD 音質の再生 (サンプルあたり 44,100Hz、16 ビット、2 チャンネル) には、最大 1.5 Mbps が必要です。50 ミリ秒以上およびパケット損失 1% 以上のラウンドトリップネットワークレイアウトでは、音質が悪くなります。この場合、必要とする帯域幅が小さい音声フォーマットを選択することをお勧めします。ビデオ処理やほかの CPU 使用率が高いと、音声ストリームに若干の乱れが生じることがあります。
- d. 音声は仮想メディア接続を使用するため、音声を有効化している場合は、スマートカードまたはマスストレージデバイスのいずれかのみでの使用となり、両方同時に使用することができなくなります。音声セッションは [virtual media] (仮想メディア) チャンネルでの帯域幅を使用するため、仮想メディアの転送パフォーマンスに影響する場合があります。
- e. 音声接続を行うと、USB インターフェースが再度確認され、仮想メディア接続が中断したり、スマートカードセッションの再認証が必要となる場合があります。
- f. 1 つのクライアントワークステーションからは、同時音声セッションは 1 つのみサポートされます。
- g. Linux では音声サポートが非常に多岐にわたるため、詳細はユーザーマニュアルを参照してください。音声は、Apple Mac クライアントではサポートされますが、Solaris クライアントではサポートされません。
- h. 録音では、音声デバイスのレベルがクライアント PC で適切に設定されていることを確認してください。適切でないと、ひずみが発生することがあります。
- i. USB 実装はさまざまであるため、一部のターゲットサーバーでは、再生および録音を同時実行がサポートされないことがあります。帯域幅の小さな音声形式を選択することが必要となる場合があります。

2. このリリースでは、Linux および Mac クライアントから利用可能な仮想メディア操作が拡大されています。以下の点にご注意ください。

- a. Linux で KVM クライアントを使用する場合、Apple Mac および Windows のターゲットサーバーで Linux 形式のパーティションをマウントすることはできません。
- b. Apple Mac で KVM クライアントを使用する場合、Linux および Windows のターゲットサーバーで Mac 形式のパーティションをマウントすることはできません。
- c. Windows 形式のパーティションは、ほかのオペレーティングシステムでマウントできません。

- d. Apple Mac および Linux クライアントでのアクティブシステーパーティションは、仮想メディア接続前にアンマウントする必要があります。
 - e. Linux ext3/4 ドライブパーティションは、仮想メディア接続前にクライアント PC でアンマウントする必要があります。
 - f. 仮想メディアセッション中にターゲットサーバーにマウントされた場合、Mac および Linux クライアントからのマッピングされたドライブはロックされず、読み取り専用となります。
 - g. Linux の非 root ユーザーの場合、CD ROM がドライブから取り外されていると、仮想メディア接続が切断されていると表示されます。これは、非 root ユーザーに与えられている許可によるもので、root ユーザーにはあてはまりません。
3. アジア言語のサポート。KVM Clients (VKC、MPC、AKC) では、[Locale Setting of the Client PC] (クライアント PC の地域設定) を適切な言語に設定します。リモート HTML インターフェースでは、[Device Settings] (デバイス設定) メニューの [Language] (言語) 項目から、言語を設定します。
 4. カスケード接続されているターゲットサーバーのスキャンにオートスキャン機能が使用される場合、サーバーのスキャン実行時にポートの変更イベントが監査ログに記録され、また、SNMP 通知が有効化されていると、SNMP トラップも生成されます。
 5. Apple の iPad や iPhone からのモバイル KVM アクセスには、CC-SG リリース 5.2 以降が必要です。詳細については、CC-SG リリースノートを参照してください。iPhone/iPad でのアクセスでは、iOS バージョン 4.x が必要です。バージョン 4.2.1 および 4.3.1 は当社でのテスト済みです。
 6. このリリースでは、Internet Explorer 6 はサポートされていますが、セキュリティ上の問題から、それ以降の IE リリースの使用をお勧めします。**Internet Explorer 6 は、リリース 2.5 ではサポートされていません。**

留意事項および重要な情報 (リリース 2.3) (カスケード接続):

1. Dominion KXII と KX II のカスケード接続:
 - a. 2 つのレベルのカスケード接続がサポートされています。最大 1024 のターゲットサーバーを接続することができます。カスケード接続された複数の KX II スイッチをベース KX II スイッチに接続して、ベース KX II スイッチからローカルまたはリモートでアクセスすることができます。
 - b. カスケード接続スイッチをベーススイッチのローカルポートに物理的に接続する方法は 2 つあり、D2CIM-DVUSB を使用するか、Cat5 ケーブルで KX2-832 または KX2-864 の拡張ローカルポートに接続します。カスケード接続スイッチのローカルポートはベーススイッチに接続されているため、カスケード接続スイッチでアクセスをローカルで直接行うことはできません。
 - c. ベース KX II スイッチを介したローカルおよびリモートアクセスは、両方とも行うことができます。データセンターの 1 つのコンソールから最大 1024 のサーバーにアクセスするには、ローカルアクセスの統合が便利です。
 - d. カスケード接続のリモートアクセスも可能ですが、制限もあります。非 CC-SG ユーザーは、ベーススイッチに接続でき、ベーススイッチおよびカスケード接続スイッチに接続されているすべてのサーバーにリモートでアクセスできます。(1) カスケード接続スイッチ 1 つにつきサポートされるカスケード接続は同時に 1 つのみ、(2) 特定の先進機能は、カスケード接続では利用不可であるという点にご注意ください。1 つの IP アドレスからの基本的な IP アクセスを必要とするユーザーにとって、カスケード接続でのリモートアクセスは非常に便利ですが、一般的に、カスケード接続スイッチへの CC-SG または直接アクセスがもっとも機能性が高くなります。
 - e. カスケード接続では、仮想メディア、スマートカード、ずれないマウス機能が利用できません。これらの高度な機能は、カスケード接続スイッチまたは CC-SG からサーバーにリモートで直接アクセスするときに利用可能となります。
 - f. ブレードサーバーは、カスケード接続スイッチではなく、ベーススイッチに接続されている必要があります。
 - g. CC-SG および MPC では、ベーススイッチとカスケードスイッチへの直接 IP アクセスが可能で、高度な機能がすべてサポートされます。ただし、データセンターでのローカルアクセスの場合、最大 1024 のサーバーに 1 つのローカルコンソールからアクセスできるため、カスケード接続が非常に有効です。
 - h. ベーススイッチとカスケード接続スイッチは、同じ Dominion KX II リリースである必要があります。いずれの KX II モデルも、ベーススイッチおよびカスケード接続スイッチとして使用することができます。ベーススイッチとしては、特に KX2-832 および

KX2-864 が推奨されます。Dominion KX2-101 および KSX II は、現在、カスケード接続機能をサポートしていません。

- i. ベーススイッチおよびカスケード接続では、ユーザーは同じログインおよびパスワードを共有する必要があります。
 - j. ベーススイッチのブート時間は、ベーススイッチに接続されているカスケード接続スイッチの数により異なりますので、ご注意ください。これは、ベーススイッチとカスケード接続スイッチ間で同期がされるためです。
 - k. カスケード接続機能で最良の操作性を得るためには、ユーザーグループの数を最小（最大 50）にすることを勧めます。
 - l. Internet Explorer (IE) 7 は、カスケード接続でのリモートアクセスには推奨されません。IE 8 をご使用ください。
2. リリース 2.4 では、汎用ホットキーベースのカスケード接続といった、そのほかの形態のカスケード接続が利用可能です。この場合、Dominion KX II をベース層とし、ホットキーでのスイッチが可能なラリタンまたはサードパーティの KVM スイッチをカスケード接続スイッチにすることができます。この場合、KVM スイッチに接続されている KX II ポートは、[Port Configuration] (ポート設定) ページで [KVM Switch] (KVM スイッチ) の種類に設定する必要があります。この形のカスケード接続には、以下が適用されます。
- a. KVM スイッチのローカルポートをベーススイッチに接続するには、D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB CIM を使用する必要があります。
 - b. リリース 2.4 では、特定の KVM スイッチは保証されません。
 - c. カスケード接続 KVM スイッチは、ローカルポートでのホットキーのスイッチングをサポートしている必要があります。
 - d. いずれかの利用可能なホットキーシーケンスを許可して、選択したターゲットサーバーへスイッチするように、KVM スイッチを設定する必要があります。
 - e. 仮想メディア、スマートカードなどの先進 KVM 機能は、カスケード接続ではサポートされません。
 - f. 詳細については、KX II ドキュメントを参照してください。
3. 1920x1080 HD 画面解像度は、標準 VGA (アナログ) ビデオでサポートされます。DVI-A (アナログ) および DVI-I (アナログおよびデジタル兼用) ポート搭載のサーバーでは、ラリタンの新しい ADVI-VGA アダプターを使用して、DVI 信号を VGA に変換することができます。
4. Paragon II Dual CIMs (P2CIM-APS2DUAL および P2CIM-AUSBDUAL):
- a. Paragon Dual CIM はベーシックな CIM であるため、仮想メディア、スマートカード、ずれないマウスモード、ブレードサーバー、カスケード接続といった先進機能はサポートされません。
 - b. プライベートモードまたは PC 共有モードのいずれかに、両方の KX II を設定する必要があります。
 - c. KX II ユーザーグループレベルの PC 共有許可は、これらの CIM ではサポートされていません。
 - d. CIM の名前の変更は、ほかの KX II スイッチでは、そのスイッチがポートへの接続を試みるまでアップデートされません。ポートステータスの変更も同様に処理されます。
 - e. デュアル CIM を KX II と Paragon II に同時に接続することはできません。また、両方をプライベートモードまたは PC 共有モードに設定する必要があります。
 - f. Paragon II の [Public View Mode] (パブリック表示モード) はサポートされていません。
5. IPv6 は、AKC Client ではサポートされません。いずれかの Java クライアント (VKC、MPC) を使用してください。
6. 2010 年の秋には D2CIM-VUSB および D2CIM-DVUSB の新しいハードウェアバージョンがありましたが、これらの CIM は、以下のような新しいハードウェアバージョンになる予定です。D2CIM-[D]VUSBG2-AA および新しいファームウェアバージョン:
- a. 新しい D2CIM-VUSB では 4Axx
 - b. 新しい D2CIM-DVUSB では 5Axx

留意事項および重要な情報 (リリース 2.2):

1. AKC を起動するには、Microsoft の Internet Explorer (IE6 以降) を使用する必要があります。Windows XP、Vista、Windows 7 のユーザーデスクトップはサポートされています。Microsoft の .NET Framework 3.5 が必要です。
2. AKC は、構文「[http\[s\]://<KX II IP Address>/akc/](http[s]://<KX II IP Address>/akc/)」で、HTTPS または HTTP を使用して IE から起動することができます。

[Device Settings] (デバイス設定) ページの [Enable AKC Download Server Certificate Validation] (AKC ダウンロードサーバー証明書の検証を有効にする) チェックボックスをオンにすると、IE での AKC の起動方法を制御できます。

これを無効にすると (デフォルト設定)、ユーザーは、(1) アクセスする KXII デバイスの IP アドレスからの Cookie が現在ブロックされていないこと、および (2) Windows Vista、Windows 7、Windows 2008 Server のユーザーの場合、アクセスするデバイスの IP アドレスがブラウザの [信頼済みサイト] ゾーンに含まれ、デバイスへのアクセス時に保護モードが有効になっていないことを確認する必要があります。

有効にすると、管理者は、KX II に有効なホストが指定されている SSL 証明書をアップロードする必要があります。また、各ユーザーは、証明書をブラウザの信頼されたルート証明機関ストアに追加する必要があります。

CommandCenter にも同様のチェックボックスがあり、AKC を起動するには同様の操作をします。

AKC が終了時に最小化された場合、起動時も最小化されます。

3. IPv6 は、AKC ではまだサポートされていません。
4. [Security Settings] (セキュリティ設定) ページで [Enable FIPS Mode] (FIPS モードを有効にする) チェックボックスを有効にした場合、FIPS モードを入力して有効な FIPS 140-2 暗号化モジュールを使用するには、KX II スイッチをリブートする必要があります。FIPS モードでは、このモードが左情報パネルに表示され、RC4 暗号化が許可されなくなり、KVM および仮想メディアの暗号化が強化されます。
5. FIPS 準拠の操作では、各 KX II スイッチには FIPS モードで作成された SSL 証明書が必要です。これは、[Certificate Settings] (証明書設定) ページで新しい SSL 証明書の作成により対応可能です。
6. いくつかの仮想メディアオプションを、AKC で管理者の許可なしに利用することができるようになりました。
7. 強化された Apple MAC BIOS エントリを使用するには、D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB CIM のファームウェアをアップデートする必要があります。KX II をリリース 2.2 にアップグレードする際は、CIM が取り付けられているか確認してください。また、MAC 固有の USB プロファイル (BIOS Mac USB プロファイルまたは Mac OS-X (10.4.9 以降) USB プロファイル) も使用する必要があります。
8. Windows 7 のターゲットサーバーでは、新しい Windows 7 機能のため、マウントされた仮想メディアドライブは [My Computer] (マイコンピュータ) フォルダに表示されない場合があります。これを無効にするには、[Folder options] (フォルダ オプション) > [View] (表示) で [Hide empty drives in the Computer folder] (空のドライブは [コンピュータ] フォルダに表示しない) のチェックをオフにします。
9. Windows 7 では、ユーザーアカウント制御 (UAC) がオンのとき、IE で [Running as Administrator] (管理者として実行) になっていないと、仮想メディアリソース (特に修正されたドライブやドライブパーティション) にアクセスできません。
10. 一部のサーバーでは、KX II CIM が取り付けられていると、特定のワイドスクリーン形式が利用できない場合があります。その場合は、CIM の接続を外し、解像度を設定して、CIM を再度接続してください。または、ラリタンのアダプター (DDC-1440 および DDC-1680) も使用できます。
11. 新しい AKC Windows クライアントでダイレクトポートアクセスを使用する場合、1 番目のターゲットサーバーのポートに接続した後、新しいブラウザのウィンドウまたはタブを後続の接続で使用する必要があります。

留意事項および重要な情報 (リリース 2.1.10) (スマートカード):

1. Firefox バージョン 3.0.11 は、同リリースにおけるアプレットのロード問題により、サポートされません。
2. **D2CIM-DVUSB を、スマートカード / CAC 認証を必要とするターゲットサーバーに接続してください。**DVUSB CIM には、ファームウェアバージョン 3A6E 以降がロードされている必要があります。リリース 2.2 へのアップグレード時に Dominion KX II スイッチに接続されていた場合は、DVUSB CIM もアップグレードされます。接続されていなかった場合は、別個にアップグレードします。
3. スマートカード機能には、スマートカード API を含む Java Runtime Environment 1.6.x が必要です。また、スマートカード機能には、クライアント PC に PC/SC 準拠のコンピューティング環境、ターゲットサーバーに標準 USB CCID デバイスドライバーも必要です。

サポートされている伝送プロトコル (スマートカードで使用) は、T=0 および T=1 です。詳細については、Dominion KX II ユーザーマニュアル付録 A で [Smart Card Readers] (スマートカードリーダー) セクションの [Minimum System Requirements] (システム必須要件) を参照してください。

4. テストおよび認証済みのスマートカードの一覧は、Dominion KX II ユーザーマニュアル付録 A で [Smart Card Readers] (スマートカードリーダー) セクションの [Supported and Unsupported Smart Card Readers] (サポートされているスマートカードリーダーとサポートされていないスマートカードリーダー) を参照してください。
5. Windows クライアントプラットフォームでは、VKC および MPC はスマートカード/CAC 認証がサポートされません。Apple MAC および SUN Solaris クライアントは、スマートカード/CAC 認証をサポートしていません。一部の Linux バージョンはサポートされます。以下をご覧ください。
6. Linux クライアント。必要な PC/SC ライブラリバージョンでスマートカード/CAC 認証をサポートするリモートクライアントとしての使用が承認されているのは、次の Linux オペレーティングシステムのみです。

	スマートカード要件
オペレーティングシステム	PC/SC
Red Hat Enterprise Linux 5 (RHEL 5)	pcsc-lite-1.4.4-0.1.el5 pcsc-lite-libs-1.4.4-0.1.el5
SUSE 11	バージョン 1.4.102-1.24
Fedora Core 10	pcsc-lite-1.4.102.3.fc10.i386 pcsc-lite-libs-1.4.102-3.fc10.i386

7. Linux ターゲットサーバー。データセンターで、Linux サーバーのスマートカード/CAC 認証をサポートするには、新しいオープンソースのカードリーダードライバが必要です。このドライバは現在、LINUX ではまだ販売されていません。詳細については、Dominion KX II ユーザーマニュアル付録 A で [Smart Card Readers] (スマートカードリーダー) セクションの [Minimum System Requirements] (システム必須要件) を参照するか、ラリタンのテクニカルサポートにお問い合わせください。また、次の CCID ドライババージョンが必要です。

	スマートカード要件
オペレーティングシステム	CCID
RHEL 5	ccid-1.3.8-1.el5
SuSE 11	CCID 1.3.8-3.12
Fedora Core 10	CCID 1.3.8-1.fc10.i386

8. Dominion KX II 8 チャンネルモデルの拡張ローカルポートは、スマートカード認証をサポートしていません。
9. Paragon II への KX II フロントエンド。Dominion KX II を Paragon II へのフロントエンドとして使用する場合、スマートカードと仮想メディアはサポートされません。KX II で最初に Paragon II OSD アクセスするときは、マウスを手動で同期しないでください。マウスは不要です。またマウスは、キーボードの応答を数秒間遅らせる可能性があります。
10. KX II から Paragon II ユーザーステーションまでのサポートされている距離は、最大 150 ケーブルフィート (45 m) です。Paragon II ユーザーステーションからターゲットサーバーまでのサポートされている距離は、最大 500 ケーブルフィート (152 m) です。これより距離が大きくなると、ビデオの劣化につながります。

留意事項および重要な情報 (リリース 2.1.8) (DKX2-8xx モデル):

1. 拡張ローカルポートは、標準ローカルポートのコピーであり、Paragon II スイッチへのアクセスを拡張するものであることにご注意ください。
2. 推奨されるリモートクライアント PC リソースでは、1 つのリモートクライアントワークステーションで最大 4 つの同時 KVM セッションをお勧めします。

3. 拡張ローカルポートとともに使用する場合、UST および EUST ユーザーステーションに推奨されるファームウェアバージョンは、次のとおりです。
 - a. P2-UST:V5-1FE - P2 4.5 GA リリースバージョン以降
 - b. P2-EUST:EUST-3F0 - P2 4.5 GA リリースバージョン以降
4. 拡張ローカルポートステーションと KX II の間の推奨距離を下の表に示します。この距離は、ユーザーステーションの種類、画面解像度、ケーブルの種類/品質、環境的要因によって異なります。

拡張ローカルポートの推奨最大距離		
拡張デバイス	1024x768、60 hz	1280x1024、60 hz
Paragon II UMT (EUST 使用)	1000	900
Paragon EUST	500	400
URKVM	650	250
Paragon UST	500	200

留意事項および重要な情報 (リリース 2.1) (ブレードサーバー):

1. ブレードサーバーのサポートは、ブレードサーバーのメーカーやモデルによって異なります。一般的に、(1) CIM を各ブレードに接続、および (2) CIM をブレードサーバーシャーシの内部 KVM スイッチまたは管理モジュールに接続という、2つの種類があります。KX II と連動させるには、モジュールを設定する必要があります。指示事項については、ドキュメントを参照するか、テクニカルサポートにお問い合わせください。Dominion KX II Blade Configuration Guide (Dominion KX II ブレード設定ガイド) には、Dell および IBM のブレードサーバー向けの詳細な指示事項とスクリーンショットが記載されています。
2. 個別の Dell 1855/1995 ブレードを接続する場合、「USB Front Dongle for Dell PowerEdge 1855/1995」(Dell PowerEdge 1855/1995 用USB フロントドングル) ケーブルが必要です (メーカー部品番号 N8138 および Dell 部品番号 310-6484)。HP c3000 および c7000 では、「HP c-Class Blade SUV Cable」(HP c-Class ブレード SUV ケーブル) を使用します。部品番号は 416003-001 です。ポートをグループ化するには、ポートグループ管理機能を使用してください。注: HP c3000 の内部 KVM モジュールは、このリリースではサポートされません。
3. Paragon ブレードサーバー CIM は、Dominion KX II では使用しません。ブレードサーバーのポートのタイプ (PS2 または USB) に応じて、また、先進機能 (例: 仮想メディア) が必要か、サポートされているかなどにより、適切な KX II CIM を使用してください。詳細については、『Dominion KX II CIM Guide』(Dominion KX II CIM ガイド) を参照してください。
4. 仮想メディアとずれないマウス機能は、CIM が各ブレードに接続されている場合、ブレードサーバーでサポートされます。その場合、ブレードのオペレーティングシステムが CIM をサポートしていることも必要です。また、仮想メディアは、シャーシのフロントおよびリヤに D2CIM-DVUSB が接続されており、自動検出が有効な場合、IBM Blade Center E および H シャーシでもサポートされています。
5. 内部 KVM スイッチ搭載のブレードサーバーシャーシの場合、パフォーマンスおよび信頼性の理由から、1 つの KX II あたり 8 つのブレードサーバーという制限があります。CIM をそれぞれのブレードサーバーに個別に接続する場合は、制限はありません。
6. IBM BladeCenter では、Advanced Management Module (AMM) がサポートされています。古いマネージメントモジュールは、このリリースでは認証されません。KX II では、プライマリ管理モジュールとして、AMM[1] の自動検出のみをサポートしています。
7. 次の IBM BladeCenter 必須 AMM ファームウェアが推奨されます。
 - 管理モジュールファームウェア
 - メインアプリケーション: BPET36K
 - リリース: 404-22-08
 - 名前: CNETMNUS.PKT
 - 修正: 54
8. IBM BladeCenter でブレードセンターに接続する場合、ビデオを見た後、マウスを動かす前に数秒お待ちください。そうでないと、マウ

スの同期が行われず、手動で同期することが必要となる場合があります。

9. CC-SG 環境では、ブレードシャーシタイプのポートを KX II で一度設定したら、ブレードシャーシをほかのポートに移動しないでください。
10. ブレードサーバー機能は、現在は Dominion KX II-101 および KSX II 製品ではサポートされていません。
11. ブレードシャーシタイプのポートが KX II に接続されている場合、[User Management Group] (ユーザー管理グループ) は、ローカルポートからではなく、リモートで編集する必要があります。
12. リリース 2.2 での使用およびブレードサーバー機能には、CC-SG 4.1 以降が必要です。CC-SG の以前のリリースを使用する場合、内部 KVM スイッチ搭載のブレードサーバーシャーシでは、個々のブレードサーバーが標準 KVM ポートとして表示されますが、ブレードサーバーの機能はありません。CIM に直接接続されているブレードサーバーの場合、標準 KVM ポートとして表示され、標準 KVM ポートに接続することができますが、[Port Management] (ポート管理) グループ機能およびブレードサーバー機能はありません。ブレードサーバーが完全にサポートされるようにするには、CC-SG 4.1 を使用してください。
13. 詳細については、Dominion KX II ドキュメント、『CIM Guide』(CIM ガイド)、『Blade Configuration Guide』(ブレード設定ガイド) を参照するか、テクニカルサポートにお問い合わせください。

留意事項および重要な情報 (リリース 2.0.X):

1. 両方の電源は、デフォルト設定でモニターされています。片方の電源入力しか接続されていない場合は、フロントパネルの LED が赤く点灯します。[Device Settings] (デバイス設定) メニューの [Power Supply Setup] (電源設定) 機能を使用して、1 つの電源入力に設定します。
2. ネットワーク通信の信頼性を高めるため、KX II および LAN スイッチの双方で、LAN インターフェース通信速度と通信方式を同じ設定にしてください。たとえば、KX II と LAN スイッチの双方で [Autodetect] (自動検出) に設定するか (推奨)、または、双方の固定通信速度と通信方式を同じ設定にします (例: 100 Mbps/全二重)。
3. 仮想メディアには、(1) D2CIM-VUSB または D2CIM-DVUSB をサーバーの USB ポートに接続すること、(2) オペレーティングシステム (OS) または BIOS がデバイスに接続されている USB をサポートしていること、(3) ユーザーがクライアント、ターゲット、KX II で必要な管理者許可を持っていることといった、前提条件がいくつかあります。
4. すべてのサーバーやオペレーティングシステムが、すべての仮想メディアオプションをサポートしているわけではありません。一般的に、Windows Vista™、2003 サーバー、XP および Windows 2000 (最新パッチを使用) などの新しい Windows® OS ではサポートされます。Linux および Mac OS を実行しているターゲットサーバーは、Windows クライアントからアクセスする場合、通常は CD/DVD ドライブ、USB ドライブ、ISO 画像をマウントします。リリース 2.4 時点では、Mac® および Linux クライアントは、上記の注によりますが、これらのタイプのメディアもマウントできるようになりました。ほかの UNIX ベースの OS では、通常、仮想メディアはサポートされません。
5. 一般的に、仮想メディア関連 USB 2.0 規格の BIOS 実装がさまざまであることから、BIOS レベルで仮想メディアドライブからブートできないこともあります。D2CIM-DVUSB CIM は、OS および BIOS レベルで仮想メディアを使用する予定のユーザーに有用です。特定の BIOS または該当する BIOS USB プロファイルでサポートされている場合、OS レベルの仮想メディアおよび BIOS レベルに D2CIM-VUSB を使用してください。一部の BIOS は、USB デバイスをブートデバイスとしてサポートしていないこと、そのため、仮想メディアは使用できないことに注意してください。
6. Windows OS では、マウントされている仮想メディアドライブを切断するときに、ターゲットサーバー上のシステムトレイにある [Safely Remove Hardware] (ハードウェアの安全な取り外し) 機能を使用しないでください。切断は、仮想メディアメニューの [Disconnect] (切断) コマンドを使用して行います。
7. ローカルポートのユーザーは、アクティブ USB プロファイルを変更することはできません。変更が必要な場合は、いずれかのリモートクライアントから変更してください。
8. ずれないマウス機能は、OS でサポートされている必要があります。Windows および Mac OS では、通常サポートされます。Linux

および UNIX ベースの OS (AIX, HP-UX, Solaris) では、通常サポートされません。

9. Virtual KVM Client (VKC) でパネルが開かれると、クライアントと関連するブラウザのタブおよびウィンドウは、パネルが閉じられるまでユーザーの入力を待ちます。
10. Web ブラウザの更新や機能/ボタンのリロードは、VKC セッションも一緒に閉じられてしまうため、気を付けて行ってください。
11. D2CIM-PWR は、別個にご注文ください。D2CIM-PWR は、サージプロテクターに含まれていません。
12. AES 暗号を使用するには、最初に、ご使用の Web ブラウザがこの強力な暗号をサポートしていることをご確認ください。一部のブラウザではサポートされていません。AES については、[Security Settings] (セキュリティ設定) パネルの [Encryption mode] (暗号化モード) を [Auto] (自動) ではなく、[AES] に設定してください。[Auto] (自動) は、通常、RC4 暗号となります。128 ビットおよび 256 ビット AES 暗号がサポートされています。
13. 画質を最良にするには、CIM と KX II 間の以下の距離に関する指示事項に従ってください。

サーバーの画面解像度	距離
1024x768 (およびそれ以下)	150 フィート
1280x1024	100 フィート
1600x1200	50 フィート

14. 小さな帯域幅のためにネットワーク帯域幅を最小化するには、リモートクライアントの [Video Settings] (ビデオ設定) パネルで [Noise Filter] (ノイズフィルタ) をデフォルト値の 2 以上 (3 または 4 推奨) に設定します。
15. 一般的に、リモートおよびローカルコンソールでほとんどの管理機能が使用できます。ただし、一部の機能はその性質上、1 つのコンソールのみで使用可能です。たとえば、[Factory Reset] (ファクトリリセット) や [Local Port Settings] (ローカルポート設定) は、該当するローカルポートで使用可能です。ファームウェアのアップデート、バックアップ、復元、および特定の KX II デバイス診断機能は、リモートクライアントから使用できます。
16. IPv6 使用に関する注意。デフォルトでは、IPv4 ネットワークとなっています。IPv6/IPv4「デュアルスタック」動作には、[Network Settings] (ネットワーク設定) パネルで IPv6 を有効にしてください。IPv6 は、スタンドアロン設定で使用できます。IPv6 を介した仮想メディア接続でのリモート ISO 画像のアクセスは、サードパーティソフトウェア制限のため、サポートされていません。Apple MAC OS Leopard での IPv6 はサポートされていません。
17. 外部モデムの使用。モデムの接続には、ラリタンの Web サイトのファームウェアセクションで入手可能なスタンドアロンの Multi-Platform Client を使用する必要があります。パフォーマンスを高めるため、モデム接続は、4 ビットおよび 33 Kbps の接続パラメータで確立されます。モデム接続でのファームウェアのアップグレードはサポートされていません。
推奨されるモデムは、US Robotics (USR) 56K 5686E、Sportster 56K、Courier 56K、および ZOOM v90 と v92 などです。Apple MAC および Linux クライアントからは、モデムセッションは現在サポートされていません。最良の結果を得るために、USR モデムに接続されている KX II に外部モデムを介してリモートで接続する場合、リモートのモデムは、USR モデムと同じタイプであることが必要です。詳細は、ユーザーマニュアルを参照してください。
18. さまざまなユーザー管理、デバイス、セキュリティ設定を変更する場合は、必ずページの最後にある [OK] ボタンをクリックして、変更を保存および有効にしてください。
19. SUN バックグラウンド。一部の SUN サーバーでは、ある種の SUN バックグラウンド画面 (外周部が非常に暗いものなど。たとえば、NoBackDrop) が中央の位置に正確に表示されない場合があります。別の背景を使用するか、画面の左上隅に明るい色のアイコンを配置してください。
20. アポストロフィ (') は、ポート (CIM) の名前の文字には使用できなくなりました。
21. Mac OS の場合、Safari™ ブラウザは、KX リリース 2.2 での使用を認証されています。Mac サーバーには、ずれないマウス機能が必要です。「Mac OS-X (10.4.9 以降) USB プロファイルは、[Port Configurations] (ポート設定) ページで特定のポートに有効化する必要があります。

ファームウェアのアップグレード:

ラリタンでは、ソフトウェアの強化、新機能、改良などを含む、ファームウェアのアップグレードリリースをご提供しています。アップグレードは、ラリタンの Web サイト (www.raritan.com/jp) で入手いただけます。[Support] (サポート) セクションにアクセスし、[Dominion KX II] を選択してください。

新しいファームウェアリリースがあるかどうか確認します。リリースノートもご用意していますので、ご確認ください。リリースノートには、(a) 新機能/強化点に関する概要説明、(b) 重要なオペレーション上の指示事項、(c) ファームウェアアップグレードに関する指示事項が記載されています。デバイスをアップグレードする際は、リリースノートの指示に従ってください。

Dominion KX2-808、KX2-832、KX2-864 モデルのファームウェアファイルは、ほかの Dominion KX II モデルと異なりますので、ご注意ください。ファームウェアファイルは、1/2/4 ユーザーモデル用と、8 ユーザーモデル用の 2 つがあります。CC-SG は、両方のファームウェアをアップグレードできます。

ファームウェアのアップグレードの前提条件:

何か問題がある場合、または下記の前提条件を満たさない場合は、アップグレードを中止し、ラリタンのテクニカルサポートにお問い合わせください。アップグレードを行う前に、指示事項すべて (本ドキュメント) をお読みください。

アップグレードに関する一般的な指示事項 (ブラウザベースのユーザーインターフェースからのスタンドアロンアップグレード):

1. **注:ファームウェアのアップグレードを適用する前に、KX II デバイスをリブートしてください。**リブートにより、ユーザーがログインしていないこと、またはセッションがアクティブでないことを必ずご確認ください。
2. KX II デバイスをアップグレードするユーザーは、元から Admin (管理者) グループのメンバーで、Dominion KX II ユニートをアップデートする十分な管理者レベルの特権を持っている必要があります。
3. アップデートの完了には、20 分以上かかります。アップデートとその後のリブートにかかる時間は、KX II に接続されている CIM の数およびタイプによって異なります。
4. ファームウェアのアップグレードが完了するまでの時間が、システム上に表示されます。ネットワークの状況などにより、アップデートにさらに長い時間がかかる場合もあります。
5. アップグレードを開始する前に、リモートコンソールの [Maintenance] (保守) メニューの [Backup / Restore] (バックアップ/復元) 機能を使用して、KX II をバックアップすることをお勧めします。
6. Dominion KX II ユニートに接続されているすべてのデバイス (サーバー、ケーブルタップ、シリアル機器) について、リモートまたはローカルの KX II セッションを終了してください。
7. VPN 経由でファームウェアのアップグレードを行う場合は、接続が安定しており、非アクティブ時のタイムアウトがオフになっていることを確認してください。
8. アップグレードの実行に関する詳しい説明は、下記を参照してください。
9. ソフトウェアのアップグレードはフラッシュメモリに書き込まれ、完了まで時間がかかります。アップグレードの進行中は、ユニットの電源をオフにしたり、Ethernet 接続を外したりしないでください。
10. KX II ファームウェアは、CC-SG によってアップグレードすることができます。そのほかの情報については、CC-SG ドキュメントを参照してください。
11. アップグレードがうまくいかない場合は、ラリタンのテクニカルサポートにお問い合わせください。

段階的なアップグレードに関する指示事項:

1. **注:ファームウェアのアップグレードを適用する前に、KX II デバイスをリブートしてください。**リブートにより、ユーザーがログインしていないこと、またはセッションがアクティブでないことを必ずご確認ください。

2. Internet Explorer (またはそのほかのサポート対象 Web ブラウザ) では、ご使用の Dominion KX II ユニットの IP アドレスを入力し、Web ベースのインターフェースのロードが完了するまでお待ちください。
3. 管理者ユーザー [admin] (管理者) (または Admin グループのほかのメンバー) としてログインします。
4. [Maintenance] (保守) メニューで [Firmware Upgrade] (ファームウェアのアップグレード) コマンドをクリックします。
5. ブラウズしてアップデートを含む .rfp ファイルを選択します。[Upload] (アップロード) ボタンをクリックします。現在および新しいバージョンが表示されます。[Upgrade] (アップグレード) ボタンをクリックしてアップグレードを開始してください。
6. ファームウェアのアップグレードが実行されます。
 - a. アップグレード中は、KX II を実行することはできません。
 - b. アップグレードパネルに、アップグレードの進行状況が表示されます。このアップグレード手順には、15 分程度かかります。
アップグレード中またはリポート中は、KX II のリポートまたは電源の入れ直しは絶対にしないでください！
 - c. アップグレードが完了すると、完了メッセージが表示されます。
7. デバイスをリポートおよびリセットします。これには、5 分程度かかることがあります。
8. リポートが完了したら、Web ブラウザのセッションを終了し、再度ログインしてください。
9. KX II では、アップグレードが完了するとブザー音が鳴り、ログイン画面がローカルコンソールポートに表示されます。
10. Web ブラウザまたはローカルポートから、再度ログインしてください。[Maintenance] (保守) メニューの [Upgrade History] (アップグレード履歴) レポートを使用して、アップグレード状況を確認します。
11. アップグレード時に KX II に接続されている KX II の CIM (D2CIM-VUSB、D2CIM-DVUSB、D2CIM-DVUSB-XXX、D2CIM-PWR) もすべて、アップグレードされます。
12. スマートカード機能に対応するには、DVUSB CIM に、ファームウェアバージョン 3A6E 以降がロードされている必要があります。[Maintenance] (保守) メニューの [CIM Firmware Upgrade] (CIM ファームウェアのアップグレード) メニューを使用して、CIM のバージョンを確認し、アップグレード後に挿入された追加の D2CIM-DVUSB CIM をアップグレードしてください。
13. 後のリリースで行われた改良により、リリース 2.1 以降からリリース 2.0 にダウングレード (またはバックアップファイルでの復元) はできません。
14. 特定のカスケード接続の設定では、ベーススイッチでファームウェアのアップグレードを行っているときに、デバイスのリポートを促すメッセージが表示されることがあります。警告メッセージが再び表示されたら、デバイスのカスケード接続を無効にし、ファームウェアをアップグレードしてから、再度カスケード接続を行います。
15. アップデート時にご質問事項または問題が生じた場合は、ラリタンのテクニカルサポートにお問い合わせください。

本ドキュメントはラリタンのお客様のみを対象にしています。いかなる目的であれ、Raritan, Inc. から書面による承諾を得ることなく、本ドキュメントの全体または一部をこのほかの目的で使用することは禁じられています。

Copyright ©2016 Raritan, Inc. CommandCenter、Dominion、ラリタン社のロゴは、Raritan, Inc. の商標または登録商標です。無断で転載することは禁じられています。Solaris および Java は、Oracle, Inc. の商標、Windows、Windows Vista、.Net は Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Apple、Mac、Safari、iPad、iPhone は Apple Inc. の商標または登録商標です。そのほかのすべての商標は、各所有者の所有物です。